

色を通して自他の「らしさ」について考える

— 性の多様性への理解に向けて —

茂木 克浩 亀井 章央 間々田 久渚

Thinking about self and other identities through color

- Toward an Understanding of Sexual Diversity -

Katsuhiko MOGI Akihisa KAMEI Hisana MAMADA

Abstract In order to deepen our understanding of sexual minorities, we need to think about "identity." This is because many of sexual minorities are struggling to live their lives in their own way. Therefore, we conducted an activity for students in the art club of a junior high school to help them face up to their own identity. The art was practiced with a focus on color. As a result, many students were able to think about their identity. They also deepened their understanding of sexual minorities.

Keywords: *Sexual Minorities, Diversity, Art Education, Color, Art Club, Identity*

1. 研究背景と目的

筆者らはこれまでに性の多様性について理解するための美術科の題材開発を行ってきた。茂木と間々田は性の構成要素の中の性表現に注目し、自分の写真にコラージュを用いて装飾を施し「自分らしさ」を表現する中学校美術科の題材を開発し実践してきた。その実践からは、表現や鑑賞といった実体験を通じた学びが、多様な性のあり方を含む人の多様性を理解するのに効果的であるという結果を得た。一方自分らしさについて考えたことのない生徒や、考えるのが難しいと感じている生徒が一定数いることもわかった¹⁾。美術教育のなかでは「自分らしい表現」「自分らしい見方」という言葉が当たり前のように使われている。筆者らも自分らしさが生徒たちの中に既にあるという前提で題材を開発していた。しかし自分らしさが分からない生徒が一定数いるということがわかった今、改めてこのテーマと向き合う必要が出てきたのである。

筆者の一人である間々田は先にあげた授業実践の中で、セクシュアル・マイノリティ当事者の立場から、幼少期からありたい自分でいられないという経験を重ねてきていることの辛さについて生徒たちに

語っている。このようにセクシュアル・マイノリティ当事者にとって自分らしさとは重要なキーワードである。自分らしくいたいのにそれが叶わない人たちの思いに寄り添うためには、まず寄り添う側が自分らしさについて考えたことがなければ難しい。そこで本研究では自分らしさに向き合うことを通して、多様な性のあり方やセクシュアル・マイノリティ当事者の思いについて考えられるような美術科の題材開発を目指す。その中でも本論考では「色」に注目した題材の試案を開発し、中学生への実践を通してその成果について検討することを目的とする。

なお本稿は、間々田が 5. 性の多様性と色の部分を、亀井が 6. 授業実践の部分を、その他の部分を茂木が主に執筆した後、三者で全体について意見を出し合いながらまとめていった。なお本研究で実践した題材は、三者それぞれの立場から意見を出し合い協働で開発した。

2. 研究の方法

本研究では筆者の一人である亀井が顧問を務める美術部の生徒を対象に、筆者らが開発した題材を実

践した。実践時の取り組みの様子や実践後の感想、生徒が実践の中で生み出したオリジナルの色についての説明文等を基に、生徒たちが「自分らしさ」とどのように向き合ったのか、実践が多様性への理解につながったのかどうかを検討する。

3. 自分らしさについて

ここでまず「らしさ」について考えてみたい。辞書では「そのものにふさわしい様子をしていること(精選版 日本国語大辞典)、まさにそのものであると判断される程度、そのものの特徴がよく出ていること(デジタル大辞泉)」と説明される²⁾。つまり「自分らしさ」とは、自分にふさわしい様子、自分の特徴が出ていることを意味すると言える。

似た言葉として「アイデンティティ(identity)」がある。これは「自分は自分である」という感覚のことであり、エリクソンが名付けた。アイデンティティの確立は氏の発達論の中で青年期(12歳~20歳頃)に目指すものとして位置づけられると共に、その中では特に重要な課題として扱われる。また広辞苑によれば、アイデンティティとは「ある人の一貫性が時間的・空間的に成り立ち、それが他者や共同体からも認められていること。自己の存在証明。」とされている³⁾。つまりアイデンティティとは、自分一人で確立するものではなく、他者からの承認が必要であるということがわかる。

またその人のあり方を示す言葉として「個性(individuality)」がある。保育用語辞典によれば「パーソナリティや態度などを包括する、その人の独自性を形づくる全体的特徴のこと」⁴⁾、広辞苑によれば「①個人に具わり、他の人とはちがう、その個人にしかない性格・性質。②個物または個体に特有な特徴あるいは性格。」だとされている⁵⁾。自分のことを他の人とはちがうと言うためには、自分と他者とを比較する必要がある。つまり個性についても、自分一人で確立するものでなく、他者がいることで確立されていくのである。「らしさ」の辞書的な意味を参照すると、特徴という言葉が含まれている。このように考えると、自分らしさとは個性に近いものと考えられる。しかし「〇〇さんらしい」という言葉があるように、らしさの中には自分と他者とを比較したものだけでなく、他者から指摘や承認によって確立したものもあると考えられる。

アイデンティティや個性の確立のために他者の存在が必要なのであれば、それらは不変ではなく常に変化すると考えられる。それは私達の人間関係が常に変化し不変ではないためである。平野啓一郎は、人間は相手次第で様々な本当の自分をもつという「分人dividual」という考え方を提唱した⁶⁾。つまり時間の経過と共に自分らしさが変化するだけでなく、並列に存在し所属するコミュニティごとに私達は「らしさ」をもち、それを変化させているということである。

以上を踏まえ、本研究では「自分らしさ」を自分自身の中に初めから存在するものとしてではなく、生徒自身と周囲との関係性の中から立ち上がってくるものと捉え、不変のものではなく常に変化するものと考えていきたい。

4. 色とは

私達は普段から無数の色に囲まれながら生活し、それらから多くの影響を受けている。色は様々な観点から考えることができる。科学現象として説明するのであれば、色は太陽光に代表される白色光の中で、我々人間が捉えることのできる波長の光(可視光)によって生み出される感覚のことであり、物体が吸収せずに反射した可視光を、人間の網膜が捉え色として認識している⁷⁾。

一方で認知や心理的な側面で捉えれば、暖色や寒色に代表されるように色から「温かい」「寒い」という感じを受けたり「重い」「軽い」という感じを受け取ったりする。また個々の色からもさまざまな印象を受けとる。例えば、赤は情熱的で活動的な印象、青は冷静で知的な印象などである。またそれらの印象だけでなく、国や地域、宗教や文化によってそれぞれの色には意味が与えられていることがある。仏教に置いて紫は高貴な色として位の高い僧侶に与えられる色であるが、国によっては哀悼の意味でも用いられる。国旗などはそれぞれの色に意味が与えられ、色を通して自国のあり方を伝えている。このように色は様々なメッセージを伝える機能をもつ。メッセージを伝える方法はさまざまあるが、言葉では表しにくい感情や概念を伝えるのに色という視覚言語は有効である。

また色は美術科の学習指導要領に、共通事項として、形、イメージと一緒に位置づけられている⁸⁾。

共通事項とは、小学校の図画工作科から高等学校の芸術科(美術)までをつらぬくように位置づけられた美術科独自の見方・考え方である。このように色は、各学校で実践される美術の授業に置いても重要な要素である。

5. 性の多様性と色

性の多様性と色との関係を象徴するものとしてレインボーフラッグがある。レインボーフラッグとはLGBTQの尊厳と社会運動を象徴する旗である。日本において虹の色と言え、赤・橙・黄・緑・水色・青・紫の7色がよく用いられるが、LGBTQのレインボーフラッグとして最も広く使われているのは赤・橙・黄・緑・青・紫の6色である。

このレインボーフラッグの誕生には1997年、オープンリー・ゲイの市会議員としてハーヴェイ・ミルクがサンフランシスコで当選したことが大きく影響する。マイノリティの権利を守る政治家の誕生に、翌年6月に開催されるプライド・パレードをより盛り上げようと、アーティストのギルバート・ベイカーにセクシュアルマイノリティのシンボルのデザインが任されることとなった。

ベイカーは当初現在の6色のレインボーフラッグにピンクとターコイズも入れた8色の旗を考案したが、当時の染色技術では難しいということで6色となった。インタビューでベイカーは、「ポイントはね、これが虹だということなんです。6色であっても、8色であっても。すべての色のスペクトラムを表現できればそれでよかった」と語っている⁹⁾。また、それぞれの色には赤: Life (生命)・橙: Healing (癒し)・黄: Sunlight (太陽)・緑: Nature (自然)・青: Serenity/Harmony (平穏/調和)・紫: Spirit (精神) という意味が込められた。

現在、LGBTQのプライド・パレードや当事者たちだけではなく、企業や行政などがLGBTQのアライ(Ally・味方・支援者)の連帯を示すためにロゴや商品にレインボーフラッグや6色の虹色のモチーフを加えることでアピールにも用いられるようになった。

筆者である間々田の身近にいる地方自治体議員が話してくれたエピソードがある。彼は6月のプライド月間中、アライであることの表明と可視化の行動として、どこへ行くにもレインボーのマスクやネクタイ、ピンバッジを身に付けて過ごしていた。ある

日、行きつけの店舗でアルバイトの学生に「ああ、プライド月間ですね!」と声をかけられた。それをきっかけに、顔を合わせる度に会話をするようになった。その学生はLGBTQの当事者であることを彼に明かし、自身が住んでいる地域でLGBTQの発信をしている議員が居ることを知って勇気づけられたと話してくれたという。このエピソードのように、レインボーフラッグは特別なパレードでない時においても、LGBTQ当事者をエンパワメントする存在であることがよく分かる。

このように昨今日本でもプライド月間が認知されるようになり、様々な企業がその趣旨に賛同しアクションを起こしている。しかしその一方で、このプライド月間の盛り上がりに乗じてセクシュアル・マイノリティへの理解やサポート等を表明することなしに、ただレインボーの商品を作って売り上げを伸ばそうとする/それが疑われる企業が問題になっている¹⁰⁾。それだけこのレインボーカラーの認知とセクシュアル・マイノリティに関する問題への関心が高まってきているということだといえる。このようにセクシュアル・マイノリティにとって、6色の虹色という色は非常に大切な意味をもつのである。

6. 授業実践について

本実践は2日間に分けて行った。初日は自らの「らしさ」について考える題材を実践した。2日目には「誰もが自分らしく生きられる社会」の実現に向けてメッセージを発信していくような題材を行った。以下に実際の実践の流れを記す。

実践校: 群馬県 A 中学校

対象: 美術部員(全 28 名)

題材 I: 「じぶんいろ」をつくろう

日時: 2022 年 7 月 28 日 (木)

参加者: 20 名

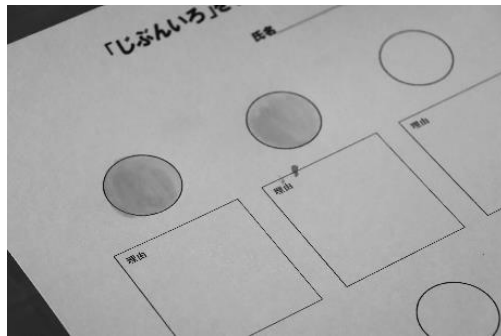
題材の流れ (活動時間 2 時間 30 分)

① 外部講師の生い立ちや現在の活動、レインボーフラッグについて知る。



(図 1) 実際のレインボーフラッグを見せながら説明をする外部講師

② 「自分らしい」について考え、ポスターカラーを用いて自分らしさを表す色を6色つくる。それぞれの色にこめた思いや理由等を文章でまとめる。



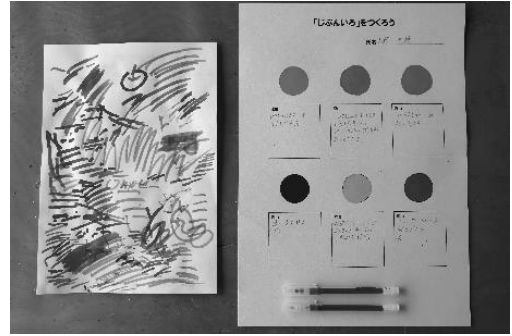
(図 2) ワークシートに作った色と理由を記入する

③ 制作した6色のうちから自分らしい色を2色選び、その色のペンをつくる。



(図 3) 水性インクを混色しペンの選んだ2色を再現する

④ 制作したペンで好きなものを描いてみる。



(図 4) 制作したペンとワークシートと試し描き

題材 I-①の段階では、筆者の一人であり外部講師として実践に参加した間々田が、自らの生い立ちや中学校時代、高校時代の悩みを赤裸々に語ることから始めた。また多様な性のあり方についての基本的な知識について解説することで、セクシュアル・マイノリティ当事者を取り巻く課題について理解できるようにした。今回の実践が色を用いて自分らしさや多様な性のあり方について考えていくこともあり、LGBTQ を象徴するレインボーフラッグの由来や6つの色に込められた意味について紹介した(図 1)。また、間々田の現在の活動¹¹⁾について紹介することで、現在向き合っている課題やそれを解決するために行っていることについて、生徒が理解できるようにした。

題材 I-②では、生徒たちが自らの「らしさ」について考えるところから始めた。その後、ポスターカラーを用いて「自分らしさ」を表す色づくりに取り組んだ。それぞれの色を生み出すにあたり、生徒は好きな色や物の色、自らの性格、好きなアニメのキャラクター、日頃抱えている想いをもとに色づくりを行った(図 2)。

題材 I-③では、自らがポスターカラーで生み出した6色の中から2色を選び自分だけのペンをつくる活動を行った。制作には「呉竹 からっぽペン」を使用し、インクには「ターレンス エコラインインク」を用いた。プラカップ(試飲用サイズ)の中でインクを混ぜてオリジナルの色を作り出し、最終的にカートリッジに染み込ませる方法で作成した(図 3)。

題材 I-④では制作したペンを使って好きなものを描く時間を設けた。生徒たちは思い思いに絵を描き、ただ線を引いただけの発色を確認する試し描きのようなものから、自分の好きなものや色からイメージしたものを描いた作品も見られた(図 4)。実践後も、自分で作成したオリジナルの色ペンを学校生活の中

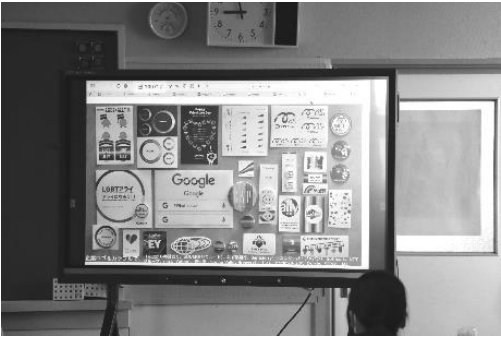


で使用している様子が見られた。

題材Ⅱ：いろイロ色カバンで出かけよう

日時：2022年8月1日（月）

参加者：23名

題材の流れ（活動時間2時間30分）

①	<p>外部講師からプライド月間やパレード、レインボーカラーを身につけることの意味やねらいについての説明を聞く。</p>  <p>(図5)各企業のレインボーカラーグッズ</p>
②	<p>レインボーフラッグの6色からイメージを広げて、トートバックに描くものを考えアイデアスケッチを行う。</p>  <p>(図6)アイデアスケッチの様子</p>
③	<p>考えたデザインをトートバックに描いていく。</p>  <p>(図7)トートバックにイラストを描いていく</p>

- ④ トートバックにアイロンを当てて描画材を定着させる。作業をしながら外部講師と制作したカバンを持ってどこに行きたいか話をする。



(図8)あて布をしてアイロンをかける



(図9)生徒が作成したトートバック

題材Ⅱ-①では、間々田が題材Ⅰで紹介したレインボーフラッグについておさらいをしながら、プライド月間やその期間に行われる企業の活動、パレードやレインボーカラーのグッズを身につけることで、多様な性のあり方について理解があることを示すことができるということについて紹介した(図5)。その中で性の多様性について理解があることを示したくても、身につけようとした時に生じる壁についても話した。虹色の服や靴などを身につけるときに配色の強さのため身につけることを躊躇ってしまうことがあったり、なかなか身につけたくなるようなデザインのものになかったりすることを生徒に伝え、制作テーマでもある日常で自分が使いたくなるデザインを考えるように話した。

題材Ⅱ-②では、6つの色をもとにトートバックのアイデアスケッチを描いた。レインボーカラーのものを身につけることが重要であることから、色に込められた意味やイメージから発想したデザインだけでなく、自分が持ち歩きたくなるようなモチーフ等を用いることをアドバイスした(図6)。

題材Ⅱ-③の段階では、アイデアスケッチが完成した生徒から、「ぺんてる 布用クレヨン(12色)」や「エポックケミカル めのペン(12色)」を用いて市

[表 1]それぞれが作った色の説明の分類 生徒 A~J

作った色の説明		好	物	感	イ	推	自	他	作った色の説明		好	物	感	イ	推	自	他		
A	好きな色だから・うれしい時	●		●					F	3年前からずっと私の1番でい続けてくれている人					●				
	好きな色だから・かなしい時	●		●						昔から好きな色。最推しのことを認めてくれた人					●				
	好きな色だから・暗い時	●		●						最推しの相方。作詞、作曲で支えてくれている人					●				
	好きな色だから・楽しい時	●		●						最近かわいいと思っっている色。				●					
	好きな色だから・明るい時	●		●						[未記入]									
	好きな色だから・情熱	●		●						[未記入]									
B	パステルカラーが好きだから	●							G	大好きなメンバーカラー。昔の自分を救ってくれた色。						●			
	この色は私が好きないろであり白をしたらパステルカラーのようなカラーが好きだから	●								自分の考え方が変わった大切な色。								思	
	パステルカラーが好きだから	●								周りの人が思う自分の色。昔から好きな色。大切な親友のイメージカラー。	●						●	友	
	暗い色が好きだから	●								大好きな人を救ってくれた人のメンバーカラー。この色があったから私が救われた。帰ってきたら「ありがとう」って言いたい。	●								思
	森林、抹茶が好きだから、自然が好きだから	●	●							もう1人の大切な親友のイメージカラー。いつも笑顔で優しい色。					●				友
	パステルカラーが好きだから、炎	●	●							美術部のイメージカラー。美術部では自分が唯一輝ける場所。								●	場
C	おちつく色				●				H	自分の好きな色。よくこの色の物をもっているから。	●	●							
	バナナの皮をむいたときの感じ。りんごの皮をむいた色のイメージ。桃のおいしい部分・このような髪色女子。もうちょっと暗い方が好き。		●							周りの人から見た自分のイメージカラー。かわいい色だから。				●			●		
	あざやかないろ。すがすがしい。				●					優しい色で輝かしい光のイメージがするから。				●					
	情熱的な色で素敵				●					自分から見た自分の色。							●		
	モロヘイヤのようにねばり強い心もちたい。赤とならべるとクリスマスを感じて好き。							願		自分の好きな花の色。	●								
	単純に好き。	●								小さいころに好きだった色。	●								思
D	明るい色が好きだから。	●			●				I	自分の精神。				●		●			
	さわやかな感じが好きだから。	●			●					自分の好きな色だから。	●								
	ミステリアスな感じが好きだから。	●			●					自分の裏の顔を表している。							●		
	明るい色が好きだから。	●			●					表に出ている自分のことを表している。							●		
	自然を感じるから。				●					自分の気分。				●			●		
	落ち着く色だから。				●					自然を天事にしているため。		●					●		
E	自分の身の回りにある物によく使われている色だから。好きな色だから。	●	●						J	何事にも最後まで諦めず、一生懸命努力する。辛いときでも乗りこえられる。				●		●			
	自分の好きなキャラクターに多い色だから。好きな色だから。		●			●				友達や家族に対する優しさ。				●			●		
	自分の好きなキャラクターに多い色だから。好きな色だから。		●			●				静かで大人しい。落ち着いている。				●			●		
	この色を見ると安心するから。好きな色だから。	●			●					大人しいところもあるけれど、明るくて陽気なところもある。笑顔や楽しさを表している。				●			●		
	この色を見ると元気がでるから。好きな色だから。	●			●					叶ったらいいなど夢が多い。夢や希望がある。				●			●		
	この色を見ると落ち着くから。好きな色だから。	●			●					辛いときや悲しいとき、ネガティブになったしまうことが多い。				●			●		

色を通して自他の「らしさ」について考える

[表 2]それぞれが作った色の説明の分類 生徒 K~T

作った色の説明		好	物	感	イ	推	自	他	作った色の説明		好	物	感	イ	推	自	他		
K	好奇心おうせいな自分を赤で表した。			●			●		P	やさしさを表現したく、うすい緑は自然などにもあるおちつける色だからです。			●			●			
	自分でも思っていて、友達にも思われている“不思議な人”な感じをあえてうすいむらさきで表した。			●			●			努力を表現し、ただの赤ではなく赤むらさきにして、頑張りを強く表してみた。			●				●		
	何かをやる時に「頑張ろう!」と思うことをやる気としてオレンジで表した。			●				●			笑顔を表現し、クリームっぽいオレンジにしようと思ったが、少しこい目にして、まぶしい笑顔を表現してみた。			●				●	
	友達にもよく言われる「天然」を少しパステルカラー気味の緑で天然を表した。			●				●			悲しみを表現して、青ではうまく表せないで、緑などを加えどくとく青にした。			●				●	
	自分自身の持つ優しさや思いやりを赤系統でなく、あえて黄色で表すことでほんわかした感じを表した。			●				●			ネガティブな感情を表現して、黒を入れて暗い感じを表現した。			●				●	
	時々冷たい対応をとってしまいう自分を青で表した。			●				●			喜びを表現し、少しうすいオレンジを使い明るい感じを表現した。			●				●	
L	黄色は、私はつねに明るく笑顔を欠かさないと思っているため黄色が好き。=笑顔						●		Q	自分の本当の気持ちを出した時の色。しっくりくる。			●			●			
	青い色は、カッコイイというイメージがあるため、自分もカッコイイと思われる人になりたい…=本当の私…?						●	理			淡いピンクはあこがれるいるだからこそ自分の色にした。	●						理	
	エメラルド色は美しい色で自分も美しいそんざいになりたいと思っているから=欲望						●	理			自分を明るくしてくれうような気がするから。				●		●		
	黒色は、自分が好きだと思いう色であり、意味は特に考えた事がない…=無感情	●										紫蝶が好きだから。	●	●					
	白色は何色を混ぜても明るくなる色。そのため私は、辛い時白色みたく明るく居ようと思っている。=明るい気持ち							●				黒猫が好き自分色に合うから。	●	●					
	赤色には「逞しい」という意味もあり、火のイメージがあるため。=強い気持ち							●				迷った時はこの色をつかうと何かしっくりする自分の個性。あらいかんじ、けど明るい感じ。			●	●		●	
M	好きな色。	●							R	想像の色。						●			
	なんとなくつかう色。	●								不安な色。							●		
	すきな色。	●									自然な色。							●	
	自分に合うと思いう色。							●			明るい色。							●	
	金魚。		●								まじめな色。								●
	よくつかう色。	●									暗い色。								●
N									S	いつもほわほわしているような気がするから。少し明るさもあると思ったので、黄色に白を混ぜた。							●		
	夜空が好き。		●								私の好きな色。	●							
	落ち着いている。				●						自然や動物が好きだから。	●	●						
	うすすぎないピンクが好き。かわいいけどかわいすぎない。	●									うそをついた事がある。								●
	やさしい色。				●						明るい。								●
O	推しのイメージカラー…?						●		T	好きな色。	●								
	推しのメンバーカラー						●			自分のダメなぶぶん。								●	
	なんか好き。落ち着く。	●									ポジティブの色。								●
	空…?		●								自分のよくわからないところ。								●
	夏っぽい。				●						好きな色。	●							
	白で統一するのが好き。(筆箱)	●	●								いいところとダメなところがまざった色。								●

【項目の説明】 好…好きな色、物…物の色、感…感情・気持ち、イ…イメージ、推…推し、自…自分のこと、内面、性格他…その他(理…理想、願…願望、友…友達からみた印象、思…思い出、場…場所)
空欄はワークシートに理由が記載されていないもの

販の無地トートバックにデザインを描いた。布用クレヨンには輪郭がぼんやりする優しい雰囲気、布用ペンははっきりとしたシャープな雰囲気が出る。生徒は自らのデザインに合わせてそれぞれの特徴を踏まえ、描画材を選択し作成した(図7)。

題材Ⅱ-④デザインが描き終わった生徒からアイロンをかけて描画材を定着させた。アイロンをかけながら、そのバックを持ってどこに行きたいのか、どうしてそのようなデザインにしたのかを、茂木と間々田から生徒に質問し、それぞれのデザインに込められた思いを聞いていった(図8)。学校生活の中で使用したいという生徒もいれば、買い物の時に持って行きたいという生徒もあり様々なバッグが誕生した(図9)。

7. 考察

はじめに題材Ⅰ『「じぶんいろ」をつくろう』において生徒たちがつくったそれぞれの色に関する説明文から生徒たちの捉えた「自分らしさ」について考察をしていく。LGBTQを象徴するレインボーカラーの各色に意味があったように、生徒たちが生み出した6色それぞれに意味がある。今回はそれを内容ごとにいくつかのカテゴリーに分けて整理した(表1, 2)。その結果、自分が好きな色やかつて好きだった色、好きな物の色、特定の感情やイメージと結びついた色、自分自身の内面や性格から連想された色といった理由が多く見られた。また推しのキャラクターや人物に割り振られた色との記述も多数あった。また理由は一つではなく、複数の理由が書かれているものもあった。

ここから生徒たちにとって自分らしさを構成する一つの要素として、好きな物や色といった、自分が好意を抱くものがあることがわかる。その一方で性格やイメージ、理想など形として表すことのできない、本人の内面も要素としてあることがわかる。これらの要素はどちらかしかないこともあれば、両方存在していることもある。またそれらがつながりあっていることもある。またそれらがつながりあっている場合もある。以上のように「自分らしさ」というのは様々な要素からできていることがわかる。

実践を終えた生徒たちの感想を分析し、そこにどのような学びがおきたのかを考察していきたい。なお生徒の感想は、明らかな誤字脱字以外は修正を行

わずに記載する。また感想は考察に必要な部分を抜粋し記載する。

初めに初日に実施した題材Ⅰ「じぶんいろをつくろう」の実践を終えた段階での感想をみていきたい。

「じぶんいろをつくろう」を終えた感想(抜粋)

- ・自分色をつくろうで、自分らしさを詳しく考えられた。最初のときに、自分らしさを考えるのにかなり時間がかかった。LGBTQの話聞いて色々ストレスや問題があることを学んだ。
- ・最初は思いつかなかったけどいろいろ作業しているあいだに自然と自分らしさが見つかる。
- ・自分の気持ちや感情などを色で表すことが難しかったけど、ペンづくりでの活動を通して自分がどういう気持ちや感情なのか改めて考える機会になったのでよかったです。
- ・改めて自分らしさを考えてみると、すぐには出てこなかったです。でも、色にしようと考えてみると理由も含めてアイデアが出てきたので楽しかったです。これから、自分らしさと言う考えを大事にしていきたいです。
- ・自分のことを考えるきっかけになった。自分はこんなんだという気づきがあった。個性を表現できるって素晴らしいことなんだと思った。
- ・自分らしさを考えるのが難しく、なかなか考えることができませんでした。自分の考えた色を見たときや友達の色を見たときにその人の個性や性格のイメージと同じような色になっていました。
- ・自分についてしっかり向き合えたかなと思った。自分に向き合う機会はなかなかないのでいい機会になったと思う。「じぶんいろ」を見つけたことによって、この先もっと自分について深く考えられそうだった。
- ・自分らしさとは、自分らしく生きることだと思います。

生徒たちの感想から色づくりと色ペンづくりが、自分のことを考えるきっかけになったということがわかった。「自分らしさを考えるのに時間がかかった。」「自分らしさを考えるのが難しく」という記述がみられることから、先に紹介した先行研究と同じように中学生にとって「自分らしさ」というものについて考えるのは容易なことではないということがわかった。最終的には全ての生徒が6色の「じぶんいろ」を生み出し、色ペンづくりも行えたことを考えると、悩みながらも作成を通して自分らしさを見つけることができたのではないかとと言える。

次に2日間の活動全体を振り返ってのまとめについて考察する。

2つの題材を終えたまとめの感想(抜粋)

- ・トートバッグをデザインして分かったことは、一人一人違うからそれを意識してこれからも頑張ろうと思いました。人は色々な個性を持っているからやりたいことをどんどんやろうと思いました。
- ・LGBTQ+について 今までわからなかったこともお話を通して知ることができたり、美術を通して自分らしさについての考えも深めることができたりしたのでとてもいい経験になりました。
- ・前回の活動や今日の活動を通していろんな性についてかんがえられたのでよかった。ペンづくりやバックの絵をかいたりしながら楽しみながらLGBTQ+について考えられたりできるのでよいと思った。
- ・自分らしさについて考えることがあまりなかったので難しかったけど、色ペン作りやトートバッグ作りをして、その人らしさが出ていたし、いろんな個性があるんだなと思った。自分のことについてよく考えられたのでよかった。色々な個性があるから、誰かの個性を否定したり、自分はみんなと違うからと言って自分らしさを隠さなくていいんだなと思った。
- ・短い時間だったけど、貴重な体験ができてよかった。まだ自分らしさは、はっきりとはわからないけど少し見つけることができたとと思う。
- ・「自分らしさ」がこの学習を通して分かったまた、嫌いだなと思う自分を振り返り見つめることができた。LGBTには色々な種類があることを学べた自分は確実とは言えないが中性なので間々田先生の話聞いて心が軽い気持ちになった。

こちらについても自分らしさを考えることにつながったという感想が多く見られた。また多様な性のあり方についての理解が深まったという感想も多く見られたことから、性の多様性に関する基本的な知識の獲得につながったと考えられる。色ペンづくりの感想では自分らしさへの言及が多かったが、まとめの感想では一人一人異なる「らしさ」を大切にしたいという多様な他者へのリスペクトがみられるものも増えていた。

8. 成果と課題

以上の考察の結果から本題材に取り組んだことによって、生徒が「自分らしさ」について考えることができた結論づけたい。また性の多様性について理解できたことはもちろんのこと、生徒のまとめの中には「個性の理解が大切だ」「人と違って自分らしさを隠す必要がないこと」という記述があり、今回の実践を通して、性のあり方を含めたより多様な存在としての他者理解について学ぶことができたと思う。

当事者である間々田が外部講師として参加したことで、これまでに自分の性のあり方について悩んだ経験のある生徒の不安をやわらげるのにつながったことを読み取れる感想があった。これは表現活動による直接の成果ではないが、本実践を通して生徒に寄り添うことができたのはとても良かったと思っている。

また本実践においても中学生にとって「自分らしさ」が難しいものであることが浮き彫りになった。しかし参加した全ての生徒が色ペンを完成させたことからわかるように、実践を通して自分と向き合う時間を設けることで、自分らしさを少しずつ見つけることができるということもわかった。

一方本論で取り上げた実践はあくまで部活動の中での活動であり、これをそのまま授業で実践すれば今回と同様の成果が出るとは言い切れないところに本研究の限界がある。そもそも美術部の生徒は美術に対しての意欲や関心が高いことが予想される。しかし授業になればそうはいかない。生徒の中には、既に美術に苦手意識を持っているものもあり、理由としてイメージがわからないことをあげるものもある。そうなる色と自分とのイメージがうまく結びつけられない生徒もいる可能性があり、自分らしさや多様な他者への理解までに至らないことも考えられる。

また成果として本実践が性の多様性や人の多様性理解につながったと記述したが、それが外部講師としての間々田の話やレクチャーから来た成果なのか、それとも制作に取り組んだことによる成果なのかについては明らかにすることはできなかった。

9. おわりに

今回の実践に参加した生徒の多くが色を通して自分らしさについて考えたり、性の多様性について理解したりすることができた。ただし、ここで見つけ

た自分らしさは、実践時の周囲との関係性から立ち上がった今ここでの自分らしさであり、それは決して不変ではない。特に思春期を迎え心身の変化の激しい時期を迎える中学生にとって、それは絶え間なく変化するものだろう。もちろんそのような中で、決して変わることのない、不変ならしさを確立する生徒もいるだろう。だが私達はどこかで、確固たる自分らしさを求めることにこだわり過ぎてこなかったらどうか。変わる「らしさ」と変わらない「らしさ」その両方があるという姿勢をもちながら今回の実践のように、時々自分について考える時間が必要なのではないだろうか。様々なものと出会いながら、自分というものを構成していく彼らにとって「自分らしい」とは何なのかを追求していく行為はとても大切な行為となり得ると考える。これは性のあり方にも通ずる考え方である。生まれ持って変わらないものもあれば、日々の暮らしの中で変化していく要素もあっていいはずである。またはっきりしない、曖昧なままのものもあっていいのである。

先に課題としてあげた通り、本実践はあくまで美術部の活動として行ったものである。そのため筆者らが目指す美術の授業での実践のためには、目標や評価項目、学習指導要領との関連等を再度見直しながら授業用の題材としてブラッシュアップしていきたい。そして授業実践を通して、さらにその題材の有効性について検討していきたいと考えている。

【謝辞】

お忙しい中、本実践にご協力いただいた学校の校長先生、教職員の皆様方、生徒の皆さん、色ペンづくりで使用したカラーインクを提供して下さった育英短期大学の井上昌樹先生に心から感謝申し上げます。

【附記】

本研究は JSPS 科研費 20K22232 の補助を受け実施したものです。

本研究は、足利短期大学倫理審査委員会による倫理審査(足短大輪委第 5 号)を受けて実施したものです。

引用・参考文献

1)茂木克浩「性を構成する要素である性表現に注目した美術科の授業実践の成果と課題」『日本美術教

- 育研究論集』第 56 号,印刷中
- 2)コトバンク「らしさ」[<https://kotobank.jp/word/らしさ-656085>](2023/02/15 アクセス)
- 3)「広辞苑第五版(電子辞書)」岩波書店
- 4)谷田貝公昭[編集代表]「改定新版 保育用語辞典」一藝社,2016,pp.143-144
- 5)「広辞苑第五版(電子辞書)」岩波書店
- 6)平野啓一郎「私とは何か—『個人』から『分人』へ」講談社,2012
- 7)大井義雄、川崎秀昭「カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版」日本色研事業株式会社,2007
- 8)文部科学省「中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 美術編」日本文教出版株式会社,2018
- 9)wotopi「LGBT の象徴「レインボーフラッグ」はなぜ 6 色? 作った人に聞いてみた」[<https://wotopi.jp/archives/41258>](2023/01/27 アクセス)
- 10)一例として、大手コンビニチェーンが LGBTQ 支援団体への寄付を謳いレインボーカラーグッズを販売するも、商品に支援に関する表記がなく、寄付先が明らかにされていなかったことから批判が寄せられた。あしたメディア[<https://ashita.biglobe.co.jp/entry/2022/06/29/110000>](2023/02/15 アクセス)
- 11)一般社団法人ハレルワの代表理事として、LINE での無料相談会や各学校での講演会、研修会の講師、当事者やアライ向けの交流会の実施などその活動は多岐にわたる。詳しくは一般社団法人ハレルワの web ページを参照されたい[<https://hareruwa.org>] (2023/01/27 アクセス)